



教職員と地域住民がともに笑顔になった！

文部科学省は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 第3章第5節2「家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携」の中で、「学校がその目的を達成するためには、家庭と地域の人々とともに児童を育てていくという視点に立ち、家庭、地域社会との連携を深め、学校内外を通じた児童の生活の充実と活性化を図ることが大切である。」と述べています。

本号では、地域住民が、学校の困り感を自分事として受けとめ、新1年生の生活支援を積極的に行っている高森小学校を紹介します。



生活支援が実現するまでの流れ ～2023年度から開始～

- ① 「新入生が早く学校生活に馴染んで、毎日喜んで登校してほしい。しかし、担任一人では対応が非常に難しい。」という校長の訴えに、民生委員児童委員協議会や社会福祉協議会が共感し、立ち上がる。
- ② 学校が生活支援のお願いパンフレット(参加希望表付き)を作成し、社会福祉協議会に手渡す。
- ③ 社会福祉協議会が参加希望表を取りまとめ、学校に提出する。
- ④ 学校が、日時や支援内容等を盛り込んだ詳しい参加一覧表を作成し、参加者に配付し、支援を開始した。

入学式の次の日から、約2週間にわたってお世話になりました。子供たちの安心や安全が保たれ、学びが充実したものとなりました。1年生なりに地域の方々の有難さを感じたと思います。 <校長>



お話聞いてくれる？ 僕はね……。 <子供>

この袋、どこに置くのかわからないよ。 <子供>

うんうん。なるほど。 <地域住民>

寒かったけど、トイレの使い方、よくわかったね。 <子供>

どこだと思っかな。 <地域住民>

自分を含めほぼ高齢者の中で生活しているので、新1年生と身近に接し、こちらが元気をもらいました。 <地域住民>

新入生を受け持つ先生が如何に大変かよわかりました。少しでもお役に立てたなら嬉しいです。 <地域住民>

ランドセルが大きいね。頑張っ！ <地域住民>



ランドセルの片づけ、提出物、トイレのお世話、活動の遅れがちな子供への優しい言葉かけ等、有難い一言です。感謝しています。 <学級担任>



教師も地域住民も本音(弱み)を出し合い、具体的な活動を通して、楽しみながら課題の解決に取り組んでいました。共に子供の成長を喜ぶ姿が印象的でした。